

## 5.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

ここでは河川の自然度・健全度や河川管理との関わりが考えられるカヤネズミ、カジカガエルなどの確認状況を整理しました。

### 【川らしいハビタット機能】

（哺乳類調査）

#### ● カヤネズミを自然分布域の 22 河川で確認

高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣するカヤネズミは、高水敷の植生変化の影響を受ける可能性があります。そこで、カヤネズミの確認状況の変化についてとりまとめました。

今回とりまとめを行った 30 河川のうち、自然分布域内である東北地方の阿武隈川、関東地方の利根川水系鬼怒川、中部地方の狩野川、中国地方の太田川など、22 河川で確認されました。

分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）に占めるカヤネズミが確認された河川数の割合からみると、1 巡目調査から 3 巡目にかけて増加傾向にあり、4 巡目は調査未実施の河川もありますが、ほぼ横ばいです。

（資料掲載：5-9～5-10ページ、5-37～5-38ページ）

### 1 ～ 4 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1 巡目調査 〈74 河川〉 (59 河川)	2 巡目調査 〈118 河川〉 (97 河川)	3 巡目調査 〈122 河川〉 (99 河川)	4 巡目調査 〈105 河川〉 (83 河川)
カヤネズミ	42 河川 〔71. 2〕	76 河川 〔78. 4〕	86 河川 〔86. 9〕	71 河川 〔85. 5〕

※ 確認河川数の比較は、調査実施全河川のうち、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～3 巡目調査のデータは、調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

※ 〈 〉内は調査対象河川数を示す。

※ ( )内は分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）を示す。

※ [ ]内は分析対象河川数に対する確認河川数の割合（%）を示す。

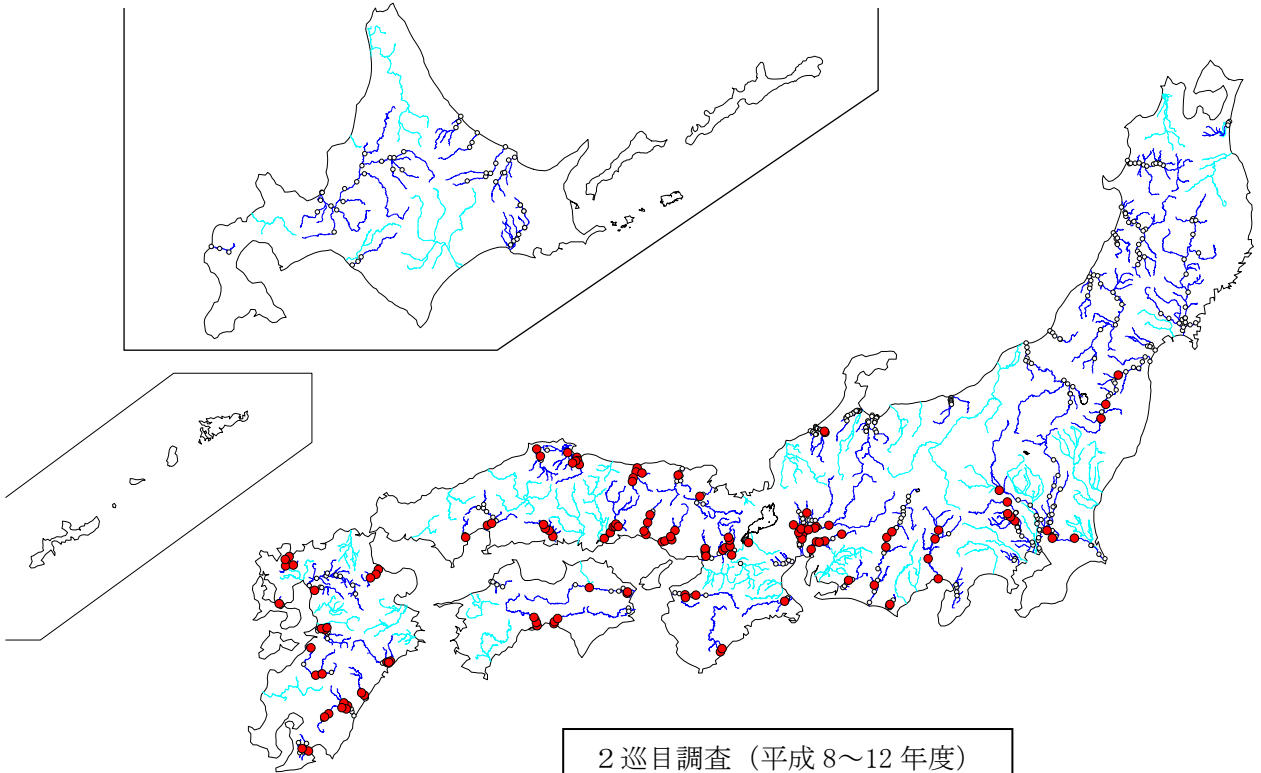
※ 分析対象河川はカヤネズミの自然分布域内の調査実施河川を対象とした。

カヤネズミは、本州の太平洋側では宮城県南部以南、日本海側では新潟県以南、四国、九州、隠岐、淡路島、豊島、因島、対馬、天草諸島下島に主に分布します。高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣する本種は、高水敷の河川環境の変化に影響を受ける可能性があります。

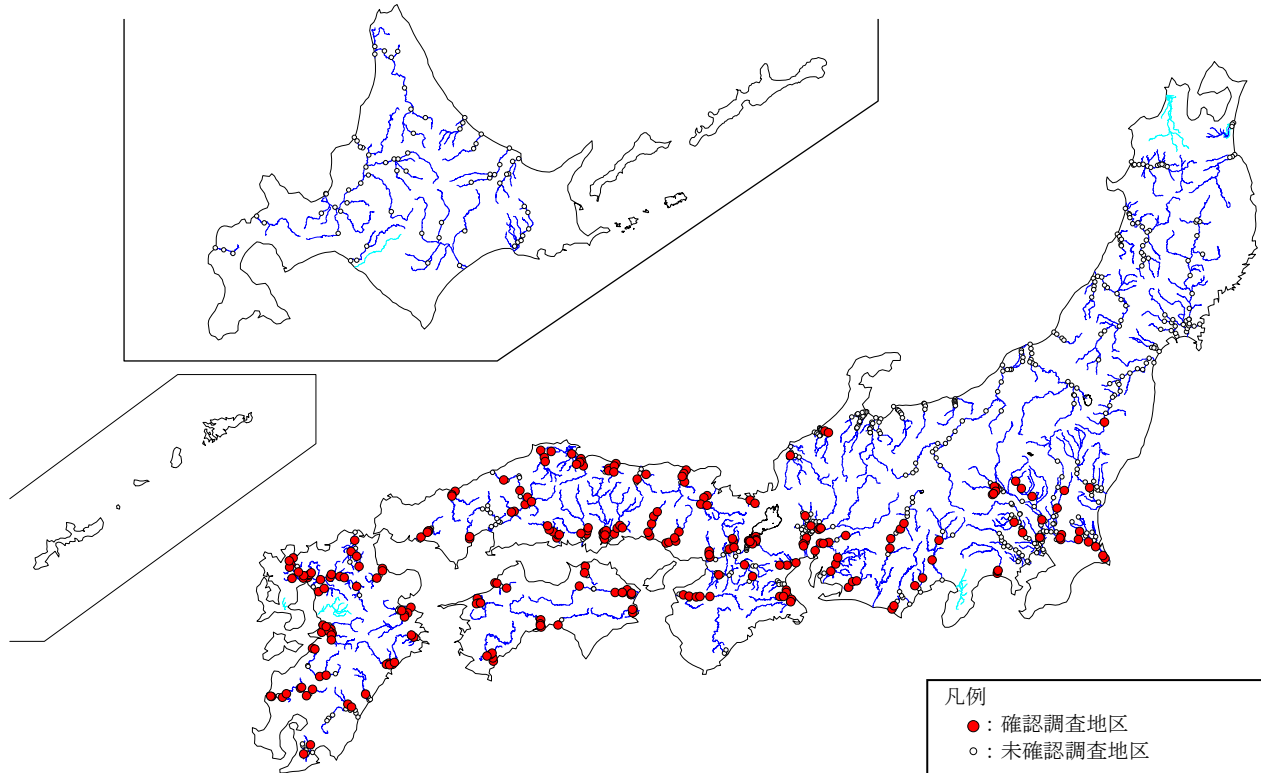
今回の調査では、カヤネズミの自然分布域である 26 河川のうち、東北地方の阿武隈川、関東地方の利根川水系鬼怒川、中部地方の狩野川、中国地方の太田川など、22 河川で確認されました。

カヤネズミの生息は、高水敷の植生などの河川環境の変化に影響を受ける可能性があります。調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認された河川数の割合からみると、1 巡目調査から 3 巡目にかけて増加傾向にあり、4 巡目は調査未実施の河川もありますが、ほぼ横ばいです。

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）



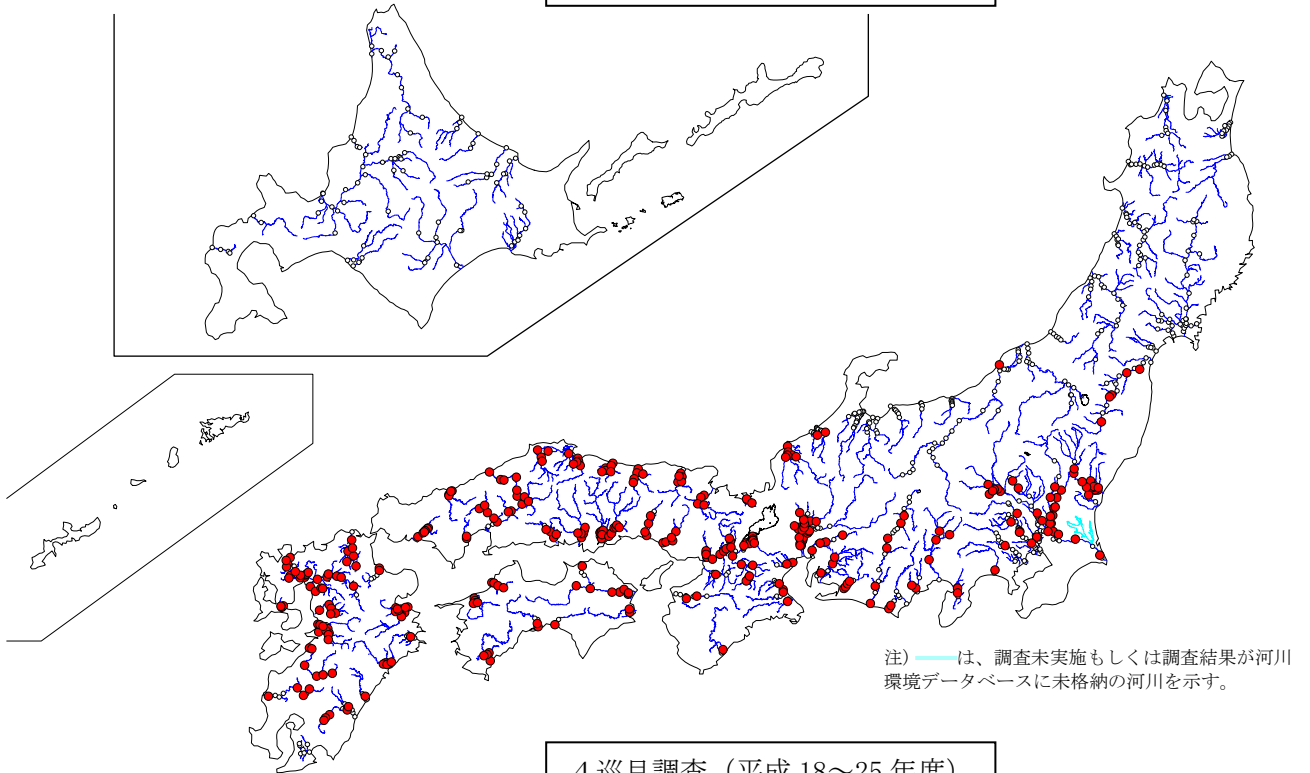
凡例

- ：確認調査地区
- ：未確認調査地区

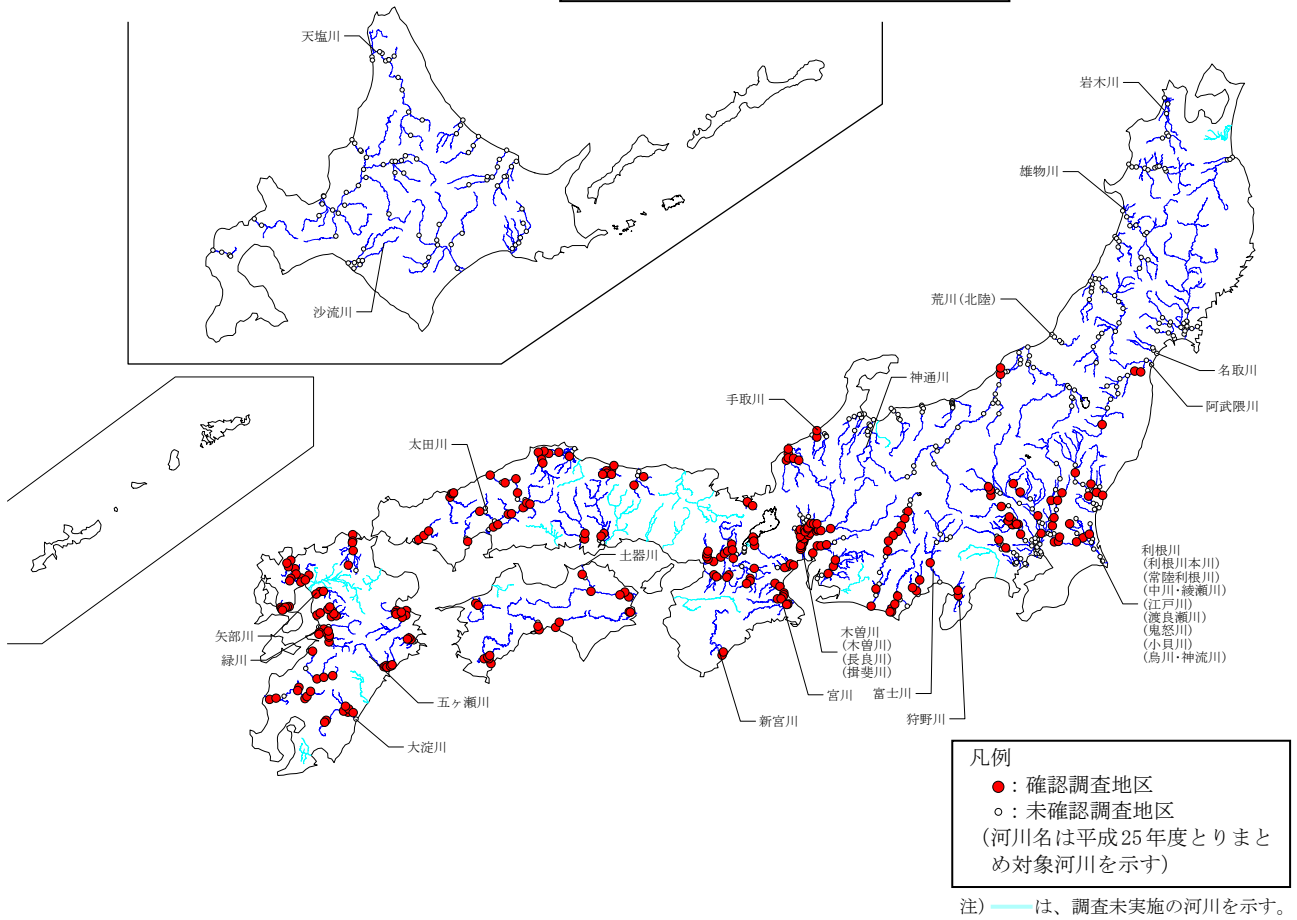
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

カヤネズミの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



4 巡目調査 (平成 18～25 年度)



カヤネズミの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

● **カジカガエルを自然分布域の 13 河川で確認**

カジカガエルは本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流にすみ、流れの石の下に卵を産みます。このため、河川環境の変化による影響を受ける可能性が考えられます。

今回とりまとめを行った 30 河川のうち、自然分布域内である東北地方の岩木川、名取川、阿武隈川、雄物川、関東地方の利根川水系渡良瀬川、鬼怒川、烏川・神流川、富士川、北陸地方の荒川、中部地方の宮川、中国地方の太田川、九州地方の緑川、大淀川の 13 河川で確認されました。このうち、中部地方の宮川、九州地方の大淀川では、今回の調査で初めて確認されました。

分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）に占めるカジカガエルが確認された河川数の割合は、2 巡目調査から増加傾向にあります。

(資料掲載：5-12～5-13ページ、5-37～5-38ページ)

1～4 巡目調査の確認河川数の比較

種類	1 巡目調査 〈74 河川〉 (66 河川)	2 巡目調査 〈118 河川〉 (106 河川)	3 巡目調査 〈122 河川〉 (109 河川)	4 巡目調査 〈105 河川〉 (92 河川)
カジカガエル	25 河川 〔37.9〕	40 河川 〔37.7〕	50 河川 〔45.9〕	47 河川 〔51.1〕

※ 確認河川数の比較は、調査実施全河川のうち、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～3 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。

※ 〈 〉内は調査対象河川数を示す。

※ ( )内は分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）を示す。

※ [ ]内は分析対象河川数に対する確認河川数の割合（%）を示す。

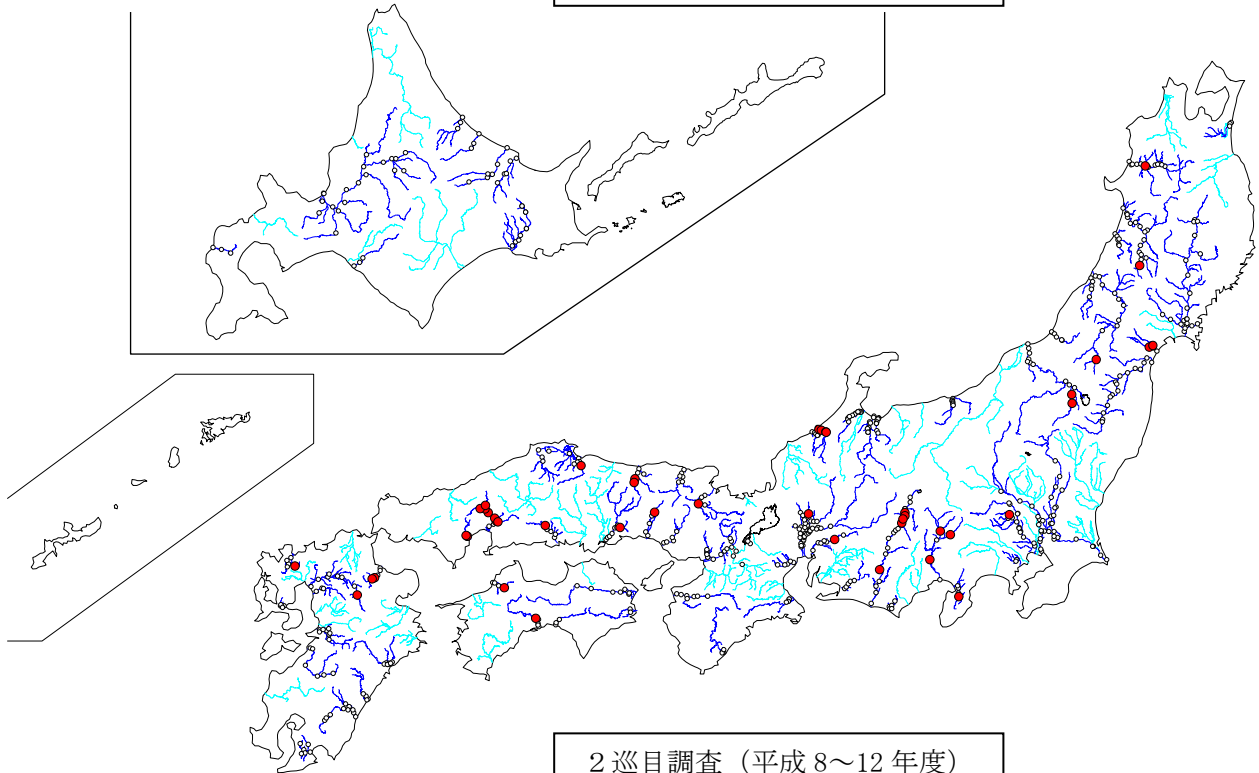
※ 分析対象河川はカジカガエルの自然分布域内の河川を対象とした。

カジカガエルは本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流と周辺の樹林にすみ、溪流中の石の下に卵を産みます。このため、河川環境の変化による影響を受ける可能性が考えられます。

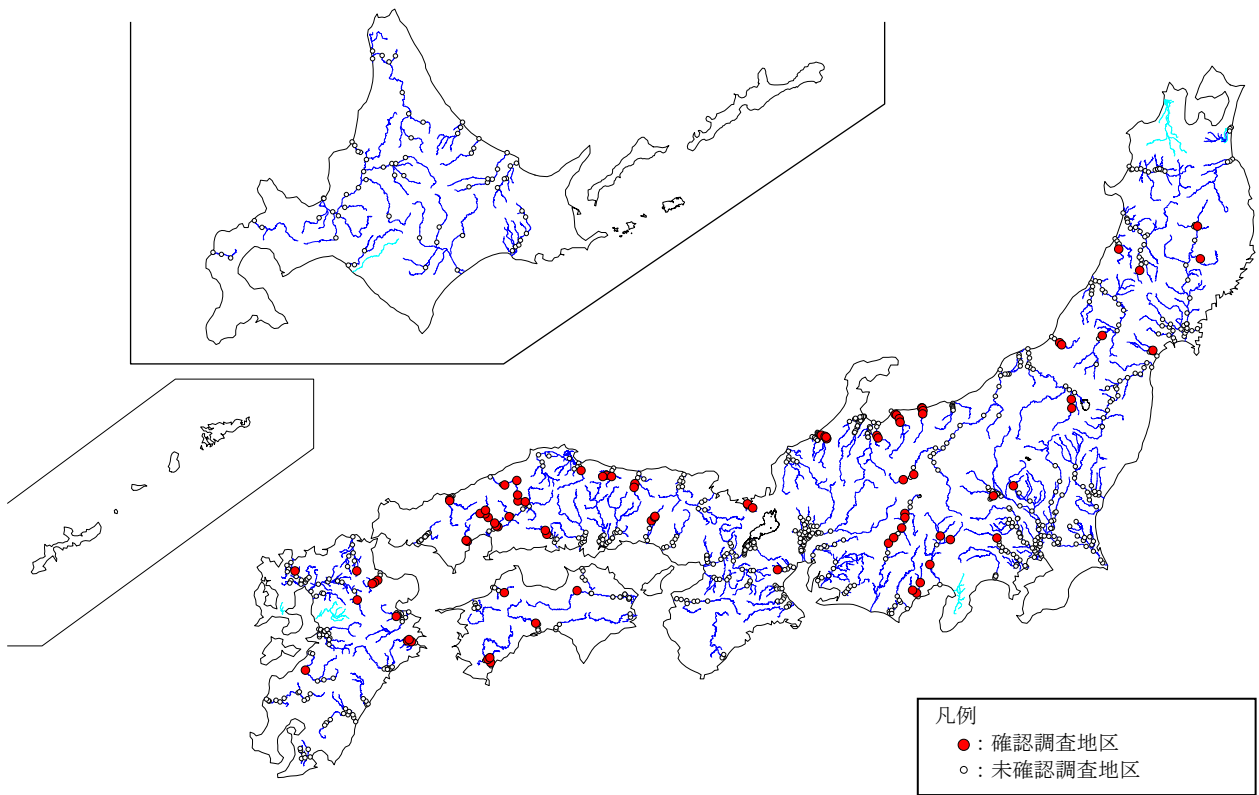
今回の調査では、30 河川のうちカジカガエルの自然分布域は 28 河川でした。そのうち、東北地方の岩木川、名取川、阿武隈川、雄物川、関東地方の利根川水系渡良瀬川、鬼怒川、烏川・神流川、富士川、北陸地方の荒川、中部地方の宮川、中国地方の太田川、九州地方の緑川、大淀川の 13 河川で確認されました。このうち、中部地方の宮川、九州地方の大淀川では、今回の調査で初めて確認されました。

カジカガエルは、河川環境の変化により生息状況に変化が生じる可能性があります。調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認河川数の割合は、2 巡目調査から増加傾向にあります。

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）

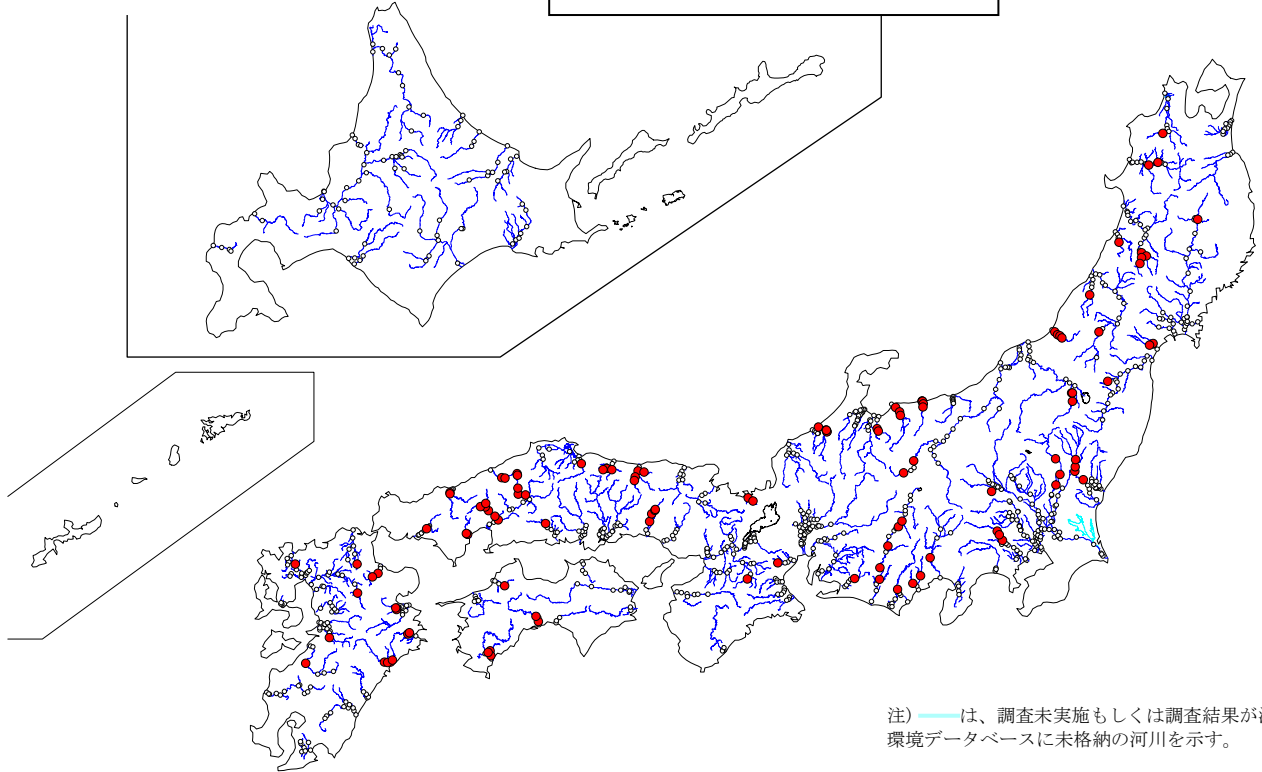


- 凡例
- : 確認調査地区
  - : 未確認調査地区

注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

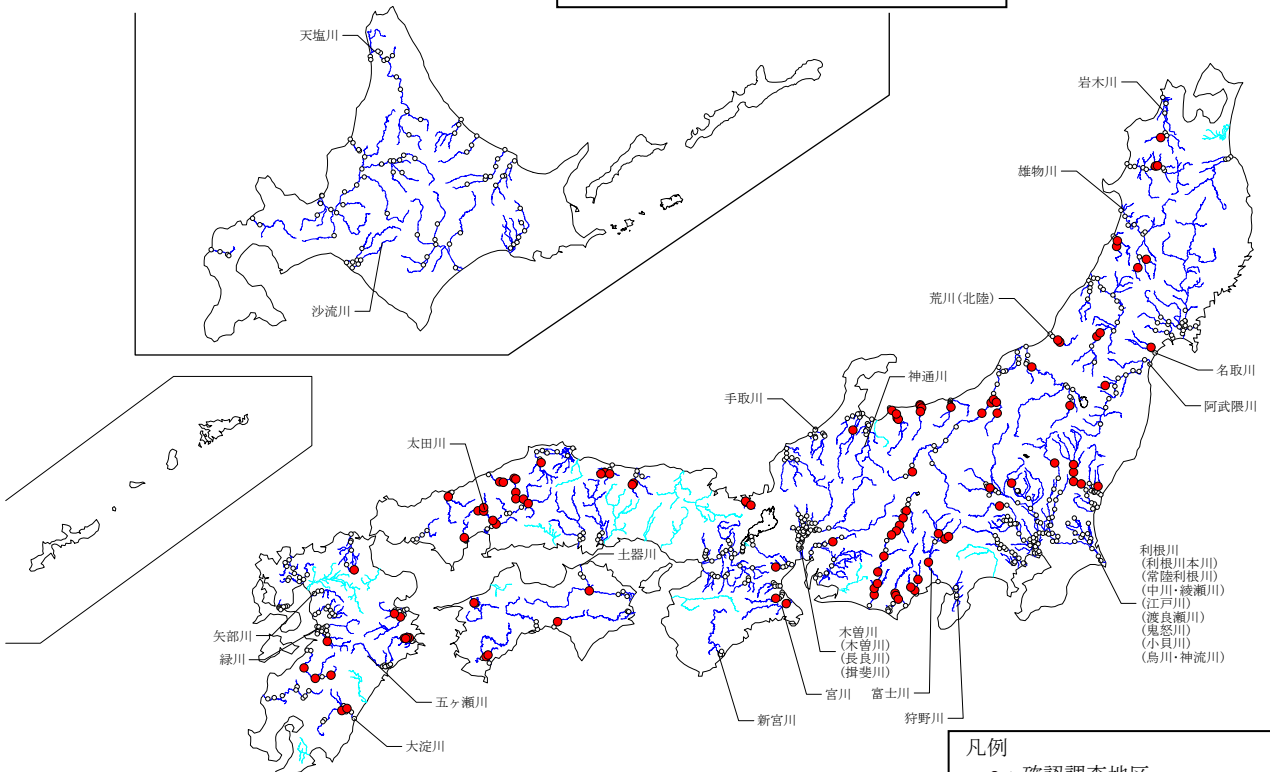
カジカガエルの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査 (平成 13~17 年度)



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

4 巡目調査 (平成 18~25 年度)



凡例

- : 確認調査地区
- : 未確認調査地区  
(河川名は平成 25 年度とりまとめ対象河川を示す)

注) 〓は、調査未実施の河川を示す。

カジカガエルの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)